

新年のあいさつ

平成22年元旦



神埼市長 松本茂幸

明けましておめでとございます。皆様には、ご家族おそろいで希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本年は、神埼市が合併して満4年を迎えます。誠に、光陰矢のごとく早いものであり、つい先年に市長就任したような感じであります。

昨年は、一昨年に始まった原油価格の高騰やアメリカのサブプライム問題等に端を発した世界経済の低迷、経済破綻からの脱却にあえぎ、国内外ともに大変な経済状況にあります。11月下旬の国際ニューズドバイの経済不況が伝えられるなど、その深刻さに驚くところであります。

また、インフルエンザの広がりへの関心と対応が大変な年でありました。

国政では、先の衆議院選挙において政権交代がなされ、選挙

公約・マニフェストに基づく事業仕分けや公共事業の大幅縮減、また、子ども手当支給や農家への戸別所得補償など大きくその実現に向けての変化を見せ、そのあり方については、テレビや新聞その他の報道によりご承知のとおりであります。

平成12年に「地方分権」が語られてから久しくなりますが、新政権下においては、「地方分権」の実現に向けて大きく展開し、地域の行政サービス充実への環境が整ってゆくものと思われま

私は、地方分権が進めば進むほど市の財政の安定が重要なことと考えております。市の責任において企画立案し、その実行と履行には財源の裏づけが絶対であり、健全な財政の上に市政運営はあるものと考えております。このことから、合併スタートから極めて厳しい財政状況下にある神埼市の財政再建に配慮してまいりました。

平成17年度決算から平成20年度決算の数値（下記の表）をご覧いただければその努力の結果は見て取っていただけるものと思えます。これで十分なものはありませんが、確実に改善の成果が現れてきています。

これは、市職員の行財政改革

	借入金額	実質公債費比率	経常収支比率	基金残高
17年度	215億円	21.5%	98.7%	9億89百万円
18年度	208億円	22.1%	95.1%	14億86百万円
19年度	205億円	21.7%	95.2%	16億88百万円
20年度	201億円	20.7%	94.4%	20億47百万円

* 実質公債費比率：18.0%未満は借り入れが自由。18.0%から25.0%以下は借り入れが知事許可。25.0%を超えると借り入れができなくなります。

* 経常収支比率：財政構造の弾力を判断する指標であり、比率が低いほど自由に使用できるお金が多いこととなります。

* 基金：不慮の資金不足または特別の歳出に充当する家庭における貯金といえます。

への頑張りとし、市議会議員の理解さらに市民の皆様のご理解とご支援ご協力の賜と深く感謝申し上げます。

また、昨年7月24日から26日朝方にかけての豪雨は、近年にない大雨であり、水防活動、土砂崩れ防止活動などの災害対応対策に対する多くの反省と課題および参考とすべきデータ等を得ることができました。



平成20年3月9日の「第1回市民交流祭」と同年11月9日の「第2回市民交流祭」は、ともに雨風と寒さに見舞われ誠に残念でありました。しかし、昨年11月8日の「第3回市民交流祭」は、晩秋の晴天に恵まれ暖かくしかも多くの市民の参加で楽しい一日を満喫していただけたことは記憶に新しく、本当に心から嬉しく思いました。新生神埼市の一体性を表す神埼市の歌と音頭が完成しましたので、今後多くの市民に親しまれ口ずさんでいただき、かつ手拍子とともに輪になり踊っていただきたいと思っております。

神埼市の活性化、地域再生を考えると、定住・一時的にかかわらず神埼市に多くの人が訪れて神埼を学び、食事や買い物、ひいては宿泊していただくようになればと思います。このような人の流れを創造するために専門家および郷土研究家の皆さんのお力を結集して、神埼市内にある歴史遺産、歴史文化財などをしっかりと検証し、整備計画を策定して順次その整備を進めるべきと考えています。

吉野ヶ里遺跡の発掘に尽力された高島忠平先生を会長とする『神埼市歴史文化遺産を活かしたまちづくり基本計画策定委員会』（15人）を立ち上げ、自然と歴史と人が織り成す博物館構想を進める基本計画の策定を本年3月までには完成させる予定です。

その後は、次のような具体的な活動について取り組んでまいります。

- 一、基盤形成（地域資源の調査ほか）
- 二、人づくり（神埼塾の開催による地域活動人材育成ほか）
- 三、地域づくり（観光ルートのブランド化ほか）
- 四、まちづくり（持続的活動の取り組みほか）

この構想始動の時期に、神埼町姉川の「姉川城跡」が国史跡指定を受けることとなり、誠に喜ばしい限りであり、大いなる弾みとなっております。

一方、経済情勢が厳しい中ではありますが、この時期だからこそ「企業誘致のチャンス」との逆転の発想から企業誘致・企業支援の優遇策を提案し、4社の進出の約束をいただいたところであります。

神埼市の行政事務、事業を円滑に、しかも効率よく進めるためには、市民の皆様のご理解とご協力、議会の支援、市職員の皆さんの取り組みへの実践・行動が不可欠であります。このため昨年は、公僕たる公務員としての意識改革から行動改革を訴え、その研修を行いました。若手職員によるプロジェクトチームで、産業振興、市民協働、組織人事の三つの事案について研究をしてもらいましたので、皆さんにご披露したいと思っています。

今年、行動改革・実践行動の年であります。市民の皆様にも市民協働のまちづくりの実践行動の初年としての意識改革から行動改革・実践行動をお願いいたします。

神埼市発展のため、市民福祉の向上のために、まだまだたくさんの方に取り組み、市民協働のまちづくりを進めてまいります。

最後に、神埼市の発展と市民の皆様のご健勝ご多幸をご祈念申し上げ、年頭のあいさつとします。

【懸案施設】

- 西郷保育園建設
- 学校給食センター
- 葬祭公園
- 脊振武道館
- 歴史資料館・物産館
- スポーツ施設

【懸案事業】

- 法落ち対策事業（水路、道路改修ほか）
- 環境対策事業（太陽光発電、下水道事業区域見直しほか）
- 安全安心対策事業（防災無線整備、地デジほか）
- 更なる子育て支援事業（給食費、医療費、保育費、学童保育費、家読推進）
- まちづくり推進事業（協働化事業）
- 企業誘致、支援事業（雇用拡大ほか）
- 高齢者の生きがい対策事業



神崎市議会議長
眞崎 貞雄

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

市民の皆様には、ご家族おそろいでお健やかに新年をお迎えることと心よりお慶び申し上げます。

輝かしい平成22年の年頭にあたり、神崎市議会を代表して新年のごあいさつを申し上げます。旧年中は市議会に対し深いご理解とご支援をいただき、お陰をもちまして議会活動に専念し、地域の振興をはじめ、市政の向上・充実に微力を尽くすことができましたことを、心より感謝申し上げます。

さて、国政においては政権交代など政治の転換期を迎え、経済情勢も回復が極めて厳しい状況にあります。国内経済が先行き不透明なために景況感が悪化し、さらに国・地方においては財政の硬直化が進み、財政運営

は益々厳しさを増しております。そのような中、神崎市におきましては市総合計画に則り着々と各種施策が展開されており、年次の経過とともにその成果が実感として捉えられる日が近くなることと思っております。

議会といたしましても、地方分権が進み、地方議会の機能強化が図られている中で、議会改革を進め、自主性・自立性を高め行政と連携して、市民生活の向上と市政の発展のために一層精励する所存であります。

本年は、議会議員改選の年であり、合併による前回の選挙のような選挙区は設けず、選挙区は一つとなり、議員定数も削減し24名の定数で選挙が行われることとなります。

神崎市が発足して5年目、これまでの実績を基盤として各種の施策が実現し、市勢が大きく飛躍することを期待するとともに、また、内外の政治・経済・社会情勢は一層厳しさを増すものと思われませんが、市議会議員一丸となって市民の皆様の付託に添うべく懸命に努力して参りたいと心を新たにしております。最後にになりましたが、本年もより一層のご支援、ご協力を申

し上げますと共に、市民の皆様のご健勝、ご多幸を心より祈念いたしましてあいさつといたします。

社会の大きな変革の中で



教育長 實松 信子

新しい年をおそろいでお迎えることとお慶び申し上げます。

また、この一年間多くの市民の皆様のご理解・ご支援を得て、神崎市の教育を推進させていただきましたことに心からお礼を申し上げます。

さて、平成21年を振り返って見ますと、主な事業として3月に県・市公立図書館と市内学校図書館のネットワーク化が完成し、本市独特の取組みが展開できるとともに、「図書館」としての認定を得ることができました。この他、学校給食共同調理場の建設委員会からの答申、全学校のトイレ一部洋式化、校舎の

耐震補強工事などの学校施設整備、念願の神崎中学校グラウンド整備工事など、お陰さまで学校環境の整備を進めることができました。

また、緊急雇用対策等の活用による学校環境支援活動や、登下校を見守っていただく安心安全対策事業も新規に行っています。

社会教育の活動状況は、いきいき大学やつまみくい講座、文化祭などで各年代層の活躍を展開してきました。

社会体育でも、乳幼児から高齢者を対象とした競技、全国規模のスポーツ行事の開催、B&Gの活動が県内唯一の特Aに認定されるなど、市民の皆様のスポーツに対する意識向上を求めてまいりました。

文化財関係では、姉川城跡が文化審議会より国指定として答申がなされ、また、市の文化財として脊振の眼鏡橋を指定しました。歴史遺産の保護活用にも今後とも努めていきたいと考えております。

昨年は、新型インフルエンザのため多くの行事を中止することとなり、大変残念なことでした。今後とも、市民の皆様の健

康安全を第一義に判断していきたいと考えています。

本年は、学校の情報通信、中学校空調の整備、指導要領移行期にかかわる諸整備などの推進学校共同調理場建設に向けての諸準備、中央公民館改修、脊振武道館建設に向けての検討委員会の推進、神崎市図書館運営審議会による図書館活動の充実などの事業を行うとともに流行に流されない教育の充実に努めてまいります。

社会がどのように変わっていくことも、質の高い神崎市の教育の充実に更に推進するためには、家庭・地域の力、大人社会の力を多くの場面で必要としています。この「まち」に生まれ、次の世代を担う子供たちの育成に、そしてまた、市民の皆様の要望に応える生涯学習の活発化を実現するためにも、市民の皆様のご理解とご協力を今後ともよろしくお願いいたします。



▲小学校での英語活動

《総務企画部》

市の行財政運営については、行政改革や行政評価など市民の視点を意識した改革や計画策定とともに、経済対策を活用した施策の積極的な取り組み、また過去類を見ない未曾有の災害にも迅速な対応を進めるなど一定の成果を見ることができ、皆さまのご理解とご協力に感謝を申し上げます。

地方を取り巻く社会経済情勢は、昨年来の金融危機に端を發した世界同時不況の進行、深刻な需要不足の中、「デフレ宣言」が出るなど、ますます厳しい環境下にあります。

また、政権交代により、行政



▲安全安心なまちづくりに向け

刷新会議による予算編成の新たな仕組みなどありますが、市民の福祉向上のために、行政改革を推進し、財源の効率的な配分を基本に、時代の潮流をしっかりと見据えた財政運営に努め、事務事業の重点的・効率的な予算編成に取り組みます。

さらに、昨年に引き続き、企業誘致をはじめ地球温暖化対策や市民の安全・安心を確保するため、交通・防犯・防災分野の整備充実を図り、安全性の向上とともに、開かれた市政運営に努めてまいります。

《市民福祉部》

市民課では、ワンストップで各種行政サービスを受けられる「総合窓口」を開設し、また、毎週火曜日（平日）は夜7時まで窓口を延長し、住民サービスの向上に努めているところです。

環境面では、自然環境・生活環境の保全、資源循環型まちづくりの推進、地球温暖化対策等の推進に取り組んでまいります。社会福祉では、子育て支援活動をを行っているところですが、さらなる充実を図ってまいります。西郷保育園の改築については、平成22年度の完成を目指し



▲お父さんも育児に参加

ます。また、基本計画に基づき福祉事業の推進に努め、市民の皆さまの福祉の充実を図ってまいります。

高齢福祉では、生きがい活動通所支援事業などの元気老人対策のほか、ひとり暮らし老人等を対象とした緊急通報システム事業などの生活安全対策に取り組みます。

障害福祉では、障害者の自立を支援するため、就労継続支援・共同生活援助などの障害福祉サービスに取り組みます。

また、地域包括支援センター事業では、介護予防事業に力を入れると共に、権利擁護や介護相談などに対応するための機能強化にも努めます。

《産業建設部》

昨年は、農業振興を図るため、効率的な経営が可能となる集落型経営体や個別大規模農家の営農確立に必要な機械・施設の整備を行い、また、さかの強い園芸農業確立対策事業等にも取り組みました。クリークの法落ちもひとかったことから、県単独事業で整備拡充を図りました。

商工振興では、地域購買を推進するため、商工会、事業所とともに商品券事業に取り組み、また、観光の面では、九年庵を核とした観光客の誘致に努めました。

建設部門では、国営千代田線沿いの市道国営千代田西1号線の道路拡幅工事を地権者のご協力を頂き計画どおりに行っております。また、上六丁踏切につきましては、現在隣接する西郷小学校の通学路となっておりますが、市内で最も危険な踏切となっております。今回JRとの協



▲秋に改良予定の上六丁踏切

議が終わり、本事業を実施するに至りました。踏切拡幅工事は平成22年秋頃を予定しています。下水道事業については、基本構想に基づき事業を推進していきます。

本年も、農林水産業や商工観光の振興、生活基盤を支える環境の整備に取り組んでいきます。

市民協働のまちづくりへ向け、職員

一丸となって取り組んでいきますので、市民の皆さまのご協力をお願いします。